

〈 こども園 表現 〉

「豊かな感性」を育むための環境構成と援助の工夫

— 幼児のイメージが広がるような素材等を使った造形遊びを通して —



浦添市立 浦添こども園

山里 逸子





目次



I	テーマ設定理由	1
II	目指す子ども像	2
III	研究の目標	2
IV	研究仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	領域「表現」について	3
2	豊かな感性について	3
3	好奇心や探究心の芽生え	3
4	造形遊びとは	4
5	素材との出会い	5
6	環境構成と援助の工夫	6
VII	保育実践	7
1	題材名	7
2	ねらい	7
3	題材について	7
4	豊かな感性を捉える指標	7
5	造形遊びに関する保育計画表	7
6	本時までの取り組み	9
7	検証保育 保育指導案	10
8	本時後の様子	12
VIII	研究の考察	13
1	作業仮説(1)の検証	13
2	作業仮説(2)の検証	14
IX	研究の成果と課題	16
	主な参考文献・引用文献	16



【要約】

本研究は、幼児のイメージが広がるような絵の具や壁紙、廃品の素材等を使った造形遊びにおいて、幼児の興味関心に即した環境構成と、幼児の思いに寄り添った援助を工夫し、好奇心や探究心を高め、豊かな感性を育むことを試みるものである。

キーワード □表現 □素材等 □造形遊び □環境構成 □援助の工夫 □好奇心 □探究心

I テーマ設定理由

近年、核家族化、地域社会とのつながりの希薄化が進み、子ども同士が集団で遊びに熱中し、時には葛藤しながら互いに影響し合って活動する機会が減ってきている。また、幼児を取り巻く社会環境が大きく変化したことでテレビゲームや動画サイト等、一人遊びが増え、友達や家族と身近な素材や道具を使った造形遊びや物を見立てて遊ぶ体験が減少し、自分の思いを表現することが苦手な子どもが増えてきた。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下教育・保育要領）解説「表現」において、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と明記されている。幼児が身近な環境と関わる中で、のびのびと表現する楽しさを味わえるよう、幼児の発達に応じた素材等の工夫や造形遊びに関する保育計画を立て、保育教諭が丁寧に援助していくことが求められている。

本学級の幼児の実態として、好きな友達と一緒に同じ遊びをして楽しむ姿やクレヨン、絵の具を使って絵を描いたり、保育教諭とスタンプ遊びを楽しんだりする姿が多く見られる。これらのことを踏まえ、幼児がイメージを広げ、豊かな感性を育むためには、造形遊びを取り入れ、今まで以上に造形遊びが楽しいと思えるような環境構成を工夫していく必要がある。

これまでの私自身の保育を振り返ってみると、一人一人の幼児の思いや願い、欲求に十分寄り添えずにあらかじめ計画された活動を計画通り

に進めることに意識が向かい、幼児が活動に十分関心を持てなかったり、夢中になって遊ぶ時間が不十分になったりすることが多かった。

そこで本研究では、様々な表現の中から、絵の具や壁紙、廃品等を使った感触遊びを中心に、色や形の組み合わせの美しさや面白さに気付き、幼児が「なぜだろう」「もっとやってみたい」と好奇心や探究心が高まるような造形遊びに焦点を当てる。幼児にとって造形遊びとは、全身を使って描いたり作ったりすることで気持ちが解きほぐされ、開放感を味わいながら身体感覚を豊かにするものである。また、自分の気持ちを伝える手段が少ない幼児にとって自分で作った作品を通して友達や保育教諭、保護者等に伝える為の手段として活用することができる。幼児は作品を作っていく中で、今まで体験してきたことを思い出し、自分が経験したことをもとに作品として表現することで、誰かに伝えたいという思いが高まると思われる。

幼児の実態に応じた造形遊びに関する保育計画を立て、幼児一人一人の思いや願い、欲求に寄り添い、夢中になって遊べるような経験を積み重ねていけるよう環境構成と援助を工夫する。そうすることで、幼児一人一人がその幼児なりに探究することを保障し、夢中になって素材等と関わって遊ぶようになり、好奇心や探究心が高まり、ひいては、豊かな感性が育まれていくのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

のびのびと造形遊びを楽しみ、イメージを広げながら自分なりの豊かな感性を働かせて、自己発揮できる子

III 研究の目標

幼児のイメージが広がるような造形遊びを通して、幼児の好奇心や探究心を高め、豊かな感性を育むための環境構成と援助の工夫を行う。

IV 研究の仮説

1 基本仮説

幼児のイメージが広がるような絵の具や壁紙、ローラー、廃品の素材等を使った造形遊びを通して、自分の興味を持ったことにじっくりと取り組むことができる環境構成や幼児の思いに寄り添った保育教諭の援助をするこ

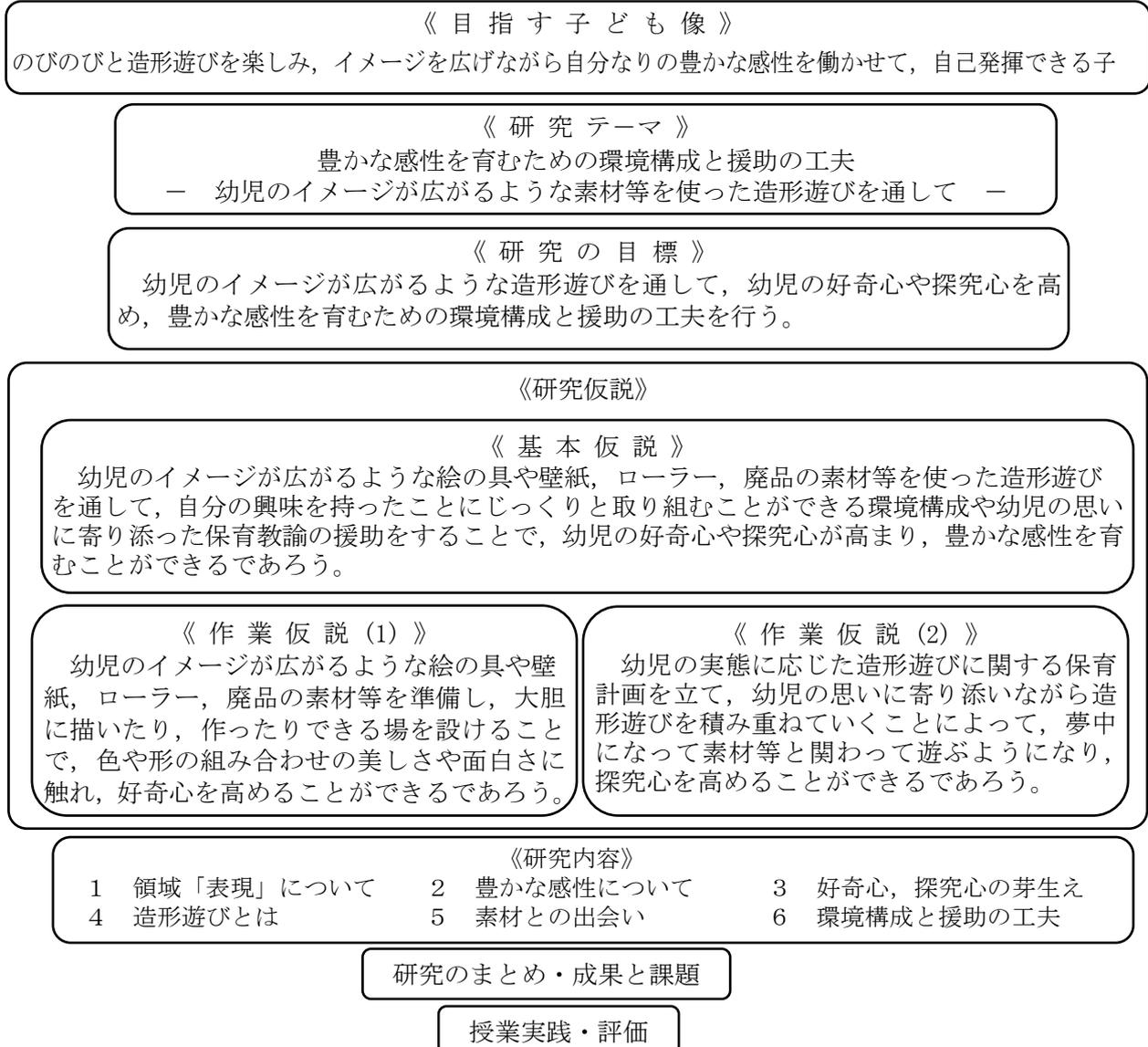
とで、幼児の好奇心や探究心が高まり、豊かな感性を育むことができるであろう。

2 作業仮説

(1) 幼児のイメージが広がるような絵の具や壁紙、ローラー、廃品の素材等を準備し、大胆に描いたり、作ったりできる場を設けることで、色や形の組み合わせの美しさや面白さに触れ、好奇心を高めることができるであろう。

(2) 幼児の実態に応じた造形遊びに関する保育計画を立て、幼児の思いに寄り添いながら造形遊びを積み重ねていくことによって、夢中になって素材等と関わって遊ぶようになり、探究心を高めることができるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 領域「表現」について

(1) 「表現」とは

幼児は、日々の生活の中で心揺さぶられる出来事に出会い、発見したことや気付いたことを物や体、言葉を使って表現している。花原（2017）によると「表現」は、「自分が感じたり思ったりしたことを、身振りや言葉など様々な方法や手段を用いて、自分以外の他者にも感じられるような形に置きかえる活動である。」とされ、表現するには、「それに先立つイメージが心のなかで蓄えられていることが必要である。」と示されている。幼児は大人に比べて、自分の気持ちを十分に伝える方法や手段が少ないため、「表出」という形で表れることが多い。「表出」は、「表現する自覚や意図がなく、顔の表情、身振りや動作、話や歌などが無意識のうちに表れたもの」とされている。

幼児のまだ「表現」とは言えない気持ちの表れ、「表出」を保育教諭は受け止め、幼児の発達や育ちの特性を理解することが重要になると考える。

(2) 「表現」の意味するもの

幼児の伝えたい、わかってほしいという願いの込められた表現は、受け取る側の判断によって時にわがままに見えたりすることがある。保育教諭は幼児の思いや背景をイメージし、なぜこのような表現をしているのか深く考える必要がある。岡（2015）によると、幼児の「表現」を受け止める際には、幼児の行為や言葉を表面的に捉えるのではなく、行為の背景にある心情や小さな動作などを読み取ることが大切であるとされている。領域「表現」の視点において、その活動が計画通りに進んだかではなく、「幼児にとって」どのような意味を持つのかを保育教諭は考えなくてはならない。つまり、保育教諭の意図に沿わない行為をする幼児自体を「困った子ども」として扱う

のではなく、その幼児なりの興味の示し方や参加したくない理由や思いを認めていくということである。

このような「表現」という視点を持つことで、幼児一人一人を、意思を持った主体的な存在として受け止めていくことができるのではないかと考える。

2 豊かな感性について

(1) 「豊かな感性」とは

豊かな感性とは、教育・保育要領の中で「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」と明記されている。「感性」とは、様々なものや出来事に気付き、感じる事ができる心の動きである。豊かな感性とは、幼児が自分のまわりの様々な世界や身近な環境と十分に関わる中で、美しいものや優れたものに敏感に気付き、感じる事ができる心の動きである。つまり、日常生活の中で、不思議だな、きれいだなと思う心、友達や保育教諭が嬉しい時に一緒に喜んだり相手の気持ちになって物事を考えたりできることなど、友達の考えを受け入れながら新たな発見に気付き、幼児なりに表現している姿を感性が豊かだと捉える（図1）。

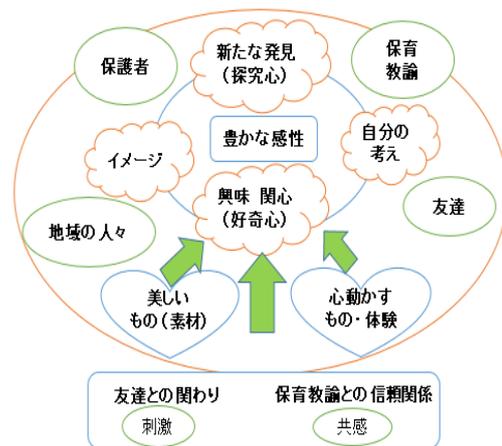


図1 豊かな感性の図

3 好奇心や探究心の芽生え

幼児期はどの幼児も好奇心旺盛で、毎日様々な体験を通して、大人が気付かないような発見を繰り返し楽しんでいる。森上

(2001)は、好奇心とは幼児らしい一つの特徴であり、未知のものや新奇なものに興味関心を持ち、そうした新たな刺激や情報を求める欲求であると述べている。つまり、幼児の身の回りの世界について「おもしろそう」「やってみよう」と思う心を支える大きな原動力となるものであり、幼児がこれらの環境に関わり、豊かな体験ができるよう、保育教諭は意図的、計画的に環境構成することが大切である。例えば、幼児の好奇心を刺激するようなざらざらした触感の壁紙、ローラー、身近な廃品の素材等を準備することで、幼児のイメージを広げ、一人一人が素材等に興味を持って遊ぶことができると思われる。

また「不思議だな」、「どうしてだろう」ということ等があれば、自分が納得するまで物事と向き合い、探究する姿も見られる。幼児が「困ったな」、「どうしよう」、「不思議だな」という出来事に出会った時、保育教諭は温かく見守り、どのようにしたら解決できるのか一緒に仮説を立て、試していくことで学びが深まり、気づきや発見が生まれる。好奇心をもとにして何度も試したり、考えたり、工夫したりすることで、探究する態度が育つであろう。

このことから、様々な素材等を使って遊ぶなかで、自分の考えや新しい発見に気づき、イメージを広げながら作品を作っていくことで豊かな感性が育まれると考える。

4 造形遊びとは

(1) 幼児の造形的な遊びの分類

造形遊びには様々な方法がある。村内(1993)を参考に造形遊びを「感覚的遊び」、「構成遊び」、「材料体験(素材を使った遊び)」の3つの遊びとしてまとめた。

① 感覚的遊び

物を見たり、触ったりして楽しむ等、主に感覚器官を使って楽しむ遊びである。(水遊び、粘土遊び、砂遊び等)。感触

を味わうことができ、幼児の心を解放することが期待できる。

② 構成遊び

積み木、粘土、折り紙、プラモデル、絵を描くことなど、構成したり、創造したりする遊びである(身の回りにある物を積んだり、並べたり、構成したりすることを楽しむ)。幼児にとって夢中になれる遊びであり、イメージを広げることが培われている。

③ 材料体験(素材を使った遊び)

材料には、土、砂、石、粘土、木の枝、木の実、葉、花、流木、貝殻等の自然物や新聞紙、包装紙等の紙類、空き箱、発砲スチロール、プラスチック製品等の日常生活の中で使われなくなった廃材がある。素材には多様な材質、形体、色彩があり、幼児の発達段階や興味や関心に対応した素材の選択ができる。

これらを踏まえ、本研究では3歳児でも楽しめる①感覚的遊び(絵の具を使った造形遊び)を取り上げ、じっくりと素材と関わって遊べるようにする。その中で幼児が見つけた遊び(目的を持った遊び)を③材料体験(素材を使った遊び)の中で道具を使いながら表現し、夢中になって遊ぶことができるよう環境構成と援助を行う。

(2) 幼児にとっての造形遊びとは

石上(2015)によると、幼児にとって「描くこと・つくること」とは、自分の気持ちを形にして伝える手段、つまりコミュニケーションの一つであると述べている。幼児は造形遊びをしていく中で心が解放され、作る楽しさを味わっていると云える。幼児の造形遊びには幼児の「心の今」が表現されており、保育教諭等は幼児の感動する心に寄り添い、その感動をつないでいくことが最も重要

である。

本研究においても、幼児の心の動きをもとに、「今」の表現を保育教諭が大切な育ちとして受け止め、何が育っているのか、何を楽しんだのかを読み取り、幼児の一つの表現として、幼児が表現した作品やその過程を保護者等に写真や掲示物などで知らせていく。今日あった出来事を保護者等に知らせ、幼児と保護者等のコミュニケーションの一つとして、幼児の育ちを共に分かち合える環境をつくっていききたい。

幼児にとって作品は、言葉にならない思いを友達や保育教諭、保護者等に伝えている。受け取る側は作品の仕上がりだけを評価するのではなく、その背景にある幼児の思いや考えをくみ取っていくことが大切である。幼児は作品を通して人と共感したり、思いを伝えたりしながら、他者との関わりを深めていく。視点が違えば、新たな発見も出てくるであろう。自分とは考えが違う人もいることに気づき、自然と他者を受け入れることができるようになると思う。このように作品や掲示物、遊びの経緯を表示していくことで会話が生まれ、言語も豊かになる。また、友達と共通するところや違ったところを見つけ、認め合うことでいろいろな考えに触れ、新たな発見や考えを生み出すきっかけにもなる（図2）。

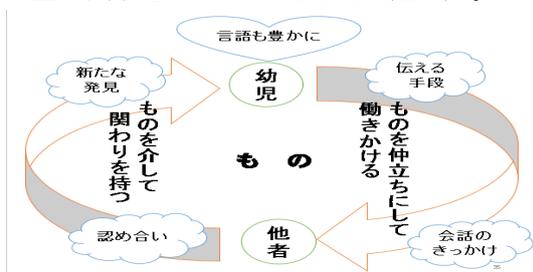


図2 ものを通して育まれるもの

造形遊びは伝える手段が少ない幼児にとって、感性を豊かに育むために最適な活動の一つであると思われる。

5 素材との出会い

(1) 素材及び材料との出会い

造形遊びは「もの」との関わりから生まれる活動である。様々な「素材」（もの）と初めて出会う幼児期だからこそ、ワクワクするような素材を準備し、多様なイメージを広げられるよう工夫していきたい。中井(2019)によると「幼児期に出会う素材は、可塑性に富み、自由に変化するものが幼児の心を開放する。」と述べている。幼児には絵の具・粘土・フィンガーペインティング等の素材と魅力的な出会いをすることで、感触を味わい、形にこだわることなく、のびのびと全身で表現する喜びを感じることができると考える。また、大きさや質感の違う紙、ペットボトルの蓋等、いつも身近にある廃品も幼児にとって新鮮な材料となる。これらの他にも布素材やザラザラした感触の素材等、幼児の心情を表すことができる柔らかい素材を準備することで幼児のイメージを最大限に引き出すことができるであろう。素材を使ってイメージを広げ、表現する喜びを味わうには様々な素材を保育教諭は準備する必要があると言える。

(2) 素材の置き方について

幼児が素材に心を惹かれ、「使ってみたい、何かを作ってみたい」とワクワクドキドキするような環境構成を保育教諭等は工夫する必要がある。様々な素材を種類別に置き、色鮮やかに美しくデザインして置くことで幼児の心を惹きつけ、幼児の創造性を豊かにし、自分のイメージに合った素材を選ぶことができるであろう。魅力的な素材の置き方にも配慮し、「作ってみたい」と思える環境構成を工夫する必要があると考える（図3）。



図3 種類別に置いた素材

6 環境構成と援助の工夫

(1) 環境構成

教育・保育要領には、第1章総則のなかで、「環境を通して行う教育及び保育が基本となる」と記されている。保育教諭が、環境構成を工夫することは、幼児の遊びを深め、幼児同士が学び合い、豊かな経験を積み重ねることにつながる。幼児が主体となり、夢中になって遊ぶことができるよう、保育教諭は造形遊びの見通しを持ち、個々の実態や発達段階に応じた援助を行うことが必要である。その上で、素材等とじっくり関わることができる時間と空間等の確保も重要であると考え。幼児一人一人がのびのびと造形遊びが楽しめるよう、広い空間(遊戯室)を利用し、様々な素材等を準備する。中には広い空間が落ち着かない幼児もいるので、一人でゆっくり過ごせる空間も確保し、環境構成を行っていく。

(2) 保育内容の展開

素材等を使って遊びを展開していく中で、その遊びに意味のある体験ができるよう、意図的かつ計画的に環境構成を行っていく必要がある。花城・田島(2019)は「幼児とのかかわりを通して、その対象の潜在的な学びの価値を引き出すことができる」と述べている。素材等の特性を活かし、どの場面でどのような素材等を提供すれば幼児の興味関心が高まり、意欲へとつながるのかを吟味するための教材研究を行う必要がある。

(3) 造形遊びがより深まっていくために

造形遊びの過程を写真等で掲示することで、幼児はその遊びを振り返ることができ、「もっと〇〇してみたい」と想像を膨らませ、期待を持って遊びを展開していくことができると思われる。また、保護者にも知らせていくことで、幼児とのコミュニケーションの一つとなり、言語が豊かになっていくと考えられる。さらに造形遊びで育ま

れた資質・能力が表出した幼児の姿を、写真や文字、エピソードを添えて個人の保育記録として作成し、教育・保育要領の「幼児教育において育みたい資質・能力」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見た幼児の育ちを細かく伝えていくようにする。

保護者等が造形遊びの良さを実感し、家庭でも造形遊びができる環境を作っていくことによって、幼児の造形遊びへの興味関心がさらに高まると思われる。家庭での遊びが、ものを作る遊びへとつながっていくよう工夫を図る。

(3) 幼児の表現を高めるために、保育教諭が果たす様々な役割

幼児が興味を持っている造形遊びをより楽しい遊びにするために、日々の生活における感動体験を創り出していくことは重要である。幼児の豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための保育教諭の援助の在り方について中井(2019)の保育者の役割を参考にまとめてみた(表1)。

表1 保育教諭の援助の視点と工夫

<p>【援助の視点】</p> <ul style="list-style-type: none">・いつもと違う非日常的な空間(幼児の作品を壁に飾り、素材を色彩や種類別に置く、ICT機器を使って風景等を映し出す等)を創り出すことで表現を誘い出す豊かな生活環境を設定する。・発達に応じた素材や道具を提供する。・作品が完成した時には、どんな思いで作ったのか言葉で伝えられるよう援助し、自分の表現を受け止めてもらう機会を設けることで、表現意欲を高め、幼児なりの表現を育む。・幼児の表現内容を丁寧に読み取り、幼児の自由な発想を引き出していく。 <p>【環境の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児がのびのびと表現できるよう、広い空間(場所)を用意し、みんなで造形遊びができるようにする。・幼児のイメージが広がるような素材等を準備し、色彩を意識しながら種類別に置き、「使ってみよう」と思うような素材の置き方を工夫する。・汚れても大丈夫なよう、遊戯室の床全体にビニールシートを敷いておく。

このような役割を保育教諭が行っていくことで、幼児の豊かな感性が育まれていくと考えられる。心が躍動する素材等との出会いを大切にし、発見する喜びを仲間と共に分かち合いながら造形遊びができるようしめるよう、援助していく。

Ⅶ 保育実践

1 題材名 『様々な素材等で好きなものを作ってみよう！』

2 ねらい

(1) 様々な素材等を使って友達や保育教諭と一緒にイメージを共有し、作る楽しさを味わう。

3 題材について

(1) 本学級の実態

本学級の幼児の実態として、好きな友達と一緒に同じ遊びをして喜ぶ姿やクレヨンや絵の具を使って絵を描いたり、保育教諭とスタンプ遊びを楽しんだりする幼児が多く見られる。幼児の「もっと作ってみたい」という気持ちを大切に、今まで以上に造形遊びが楽しいと思えるような環境構成や幼児の思いに寄り添った保育教諭の援助、幼児の実態に応じた造形遊びに関する保育計画を立て、造形遊びの経験を積み重ねていくことが必要である。

(2) 題材を取り上げた理由

本学級の幼児は絵本や図鑑が好きな幼児が多く、イメージを広げて遊ぶ様子が見られる。また、造形遊びが好きで自らハサミやクレヨンを持ち、作品を作ったり、絵を描いたりする幼児もいる。保護者等のアンケートや園での遊びの様子からものを作って遊ぶ経験が少ないように感じられたので、園でも想像力が育まれるような造形遊びを取り入れ、のびのびと自己発揮できる環境構成の工夫や個に応じた援助の必要があると感じていた。そこで保育教諭の手立てとして体を思いっきり動かし、大胆に描くことができる遊戯室を利用し、幼児のイメージを広げられるような絵の具やローラー、廃品(素材)等を使うことで好奇心や探究心を育み、幼児の思いに耳を傾け、幼児の実態に応じた造形遊びに関する保育計画を立て、造形遊びの経験を積み重ねていくことで、豊かな感性を育むことができるのではないかと考え、この題材を取り上げた。

4 豊かな感性を捉える指標

検証保育を行う際に、保育教諭が幼児の姿をどのように捉えるかという具体的な視点を持って保育を行うことにする。そこで保育教諭が造形活動への関わりにおける環境構成と援助の工夫について3つの視点で捉える。

・一人一人にあった身近な素材等を用意することができていたか。	・幼児がのびのびと造形遊びを楽しんでいたか。	・自分なりのイメージを言葉で表し、遊ぶことを楽しんでいたか。
--------------------------------	------------------------	--------------------------------

5 造形遊びに関する保育計画表

検証保育の実践にあたり、下記のような全体計画を立てた(表2)。

表2 造形遊びに関する保育計画表

実践	日程	題材及び調査等	ねらい	活動内容
1	6月	○保護者へ聞き取り調査	・幼児の家庭での実態を調査し、保育実践に活かす。	・保護者への聞き取り調査①
2	12/11	○好きな色をつくってみよう！	・目で色が混ざる不思議さを楽しみ、手と指で絵の具の感触を味わう。 ・大きな壁紙を使って描く開放感を味わう。 ・イメージを膨らませながら、遊ぶ楽しさを味わう。	・違う色の絵の具を混ぜるとどうなるのか試し、色の変化に気付く。 ・壁紙の触り心地を手や足で確認しながら、大胆に描く楽しさを味わう。 ・素材等からイメージを広げ

				て遊ぶ。 ・遊びを振り返り、楽しかったことを発表する。
3	12/12	○ローラーを使って遊んでみよう！	<ul style="list-style-type: none"> ローラーを使って、絵の具でのびやかに描くことを楽しむ。 全身を大きく動かし、大胆に描く楽しさや開放感を味わう。 ローラーで描いた絵が何に見えるのか、見立て遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ローラーも使って大きな壁紙に好きな色をつけて遊ぶ。 ローラーで手に色を付けたり、思いっきり全身を使って線をひいたりして、形・色・手触り・質感などに気付く。 ローラーで絵の具を重ね、壁紙の模様が浮き出てくることを楽しむ。 自分の描いた絵（作品）で遊ぶ。 工夫したことや気付いたことを発表する。
4	12/19 本時	○様々な素材等を使って好きな物を作ってみよう！	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育教諭と一緒にイメージを広げ、のびのびと作る楽しさを味わう。 好きな素材を見つけて遊ぶ中で、幼児が体験してきたことを思い出し、素材を何かに見立てて遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育教諭と一緒に様々な素材を使ってイメージを広げながら、好きなものを作って遊ぶ。 作った作品について保育教諭と一緒にみんなに説明する。 作った作品をみんなで見る。
5	12/23	○自然物を使ってジュースを作ってみよう！	<ul style="list-style-type: none"> どんな自然素材を使うと色のついたジュースに変わるのか（砂、赤土、ホウセンカの花等）を使って試してみる。 どんな工夫をしたら自分の好きな色が作れるのかみんなで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もっとジュースを作りたい」との声が多かったので、今度は自然物を使ってジュースを作ってみることになった。 ジュース作ったことのある友達から作り方を教えてもらい、一緒に作って遊ぶ。
6	1/8	○どんな思いで作ったのか、保育教諭に伝えてみよう！	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見て、様々な素材等で遊んだこと思い出し、作っている時に感じた気持ちや過程の様子を保育教諭に言葉で伝える喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見ながらその時に思ったことや考えたことを伝える。
7	1/14～	○保護者へアンケート調査 ○本研究での育ちを作成し、保護者に成長を知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> 事前の聞き取り調査と比較し、検証を行う。 家庭への調査を基にその変容や課題について考察する。 素材等で遊んだ時の様子（ドキュメンテーション）を掲示する。 個人の保育記録を作成し、保護者等にもコメントを書いてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの実施 写真で掲示した「ドキュメンテーション」を保護者等に公開し、造形遊びでの学びの育ちを共有する。 本研究での学びの育ちを個人の保育記録にまとめ、3つの資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）に基づき、育ちが見られたところを保護者等に伝えていく。

6 本時までの取り組み（保育実践2より）

好きな色をつくってみよう！

ねらい：目で見て、色が混ざる不思議さ（視覚）を楽しみ、手と指で絵の具の感触を味わう。
 大きな壁紙を使って描く開放感を味わう。
 イメージを膨らませながら、遊ぶ楽しさを味わう。

活動の展開：最初は素材等とじっくり向き合えるように大きな壁紙と絵の具（赤・青・黄色・白）の4色だけを幼児に提供し、自分で色を作る楽しさが味わえるよう工夫した。

幼児の姿

10の姿からとらえた
幼児の育ちの姿

・指に絵の具が付く感覚や壁紙の質感を楽しみながら描いていたA児。描いていくうちにイメージが広がり、ストーリーを（物語）を作りながら遊ぶ姿が見られた。



「先生、花火をしている時に嵐がきてね、大雨になってしまって、その雨で恐竜が倒れたんだよ！」

・描いていくうちに、花火に見えたようでその後嵐が来て大雨を描いている時には全身を動かしてヒューヒューと嵐になりながら表現していた。空想の世界を十分に味わい、友達の前でも自分の思いを言葉で伝えていた。

・健康な心と体

絵の具に触れて開放感を味わう。

・豊かな感性と表現

自由に伸びやかに自分の表現を楽しむ。

・言葉による伝え合い

みんなの前で発表し、自分の思いを伝える。

・水入れを透明の容器にしたことで、段々色が変わっていく変化を友達と一緒に観察していたB児。次はどんな色になるのか実験していくうちに最後は茶色から色があまり変わらないことを発見していた。



「全部の色を水入れに入れた時、茶色になってね、お茶になったよ！苦くない美味しいお茶だよ。ジュースだと甘くて飲めない人もいるけど、お茶ならみんな飲めるからお茶を作ってみみんなにあげたいの。」

・茶色からお茶を想像したB児。祖父母と過ごす時間が長いため、甘い飲み物が苦手なおばあちゃんでも飲めるお茶を作ったことを保育教諭にお話していた。

・協同性

友達と一緒に色水の変化を楽しむ。

・自立心

どの色を混ぜたら茶色になるのか試していた。最後はどの色を入れても茶色から変化しないことを発見する。

・思考力の芽生え

誰でも飲めるお茶を作れるといいなと想像しながらお茶を作る。

【次回への遊びのつなぎ】

- ・遊戯室で大きな壁紙と絵の具を使って大胆に描く楽しさを味わえるよう工夫していく中で、幼児が全身を使って活き活きと絵の具で描く姿があったので、次回は遊戯室の床一面を使って、もっとダイナミックに造形遊びができるよう、工夫していきたい。
- ・手が汚れることを拒む幼児がいたので、次回はローラー等の道具を導入し、汚れることが苦手な幼児も楽しめるような工夫をしていきたい。

7 検証保育 「様々な素材等で好きなものを作ってみよう！」

保育指導案

令和元年 12 月 19 日(木) 9:00~10:00

ひよこ組 男児 10 名 女児 10 名 計 20 名

山里 逸子

(1) 本時のねらい

- ・遊びや生活の中で出会ったことや興味・関心をもったことを様々な素材等を使って楽しく表現する。
- ・素材等や道具を使って、色や大きさ、形等を自由に表現する。
- ・自分なりのイメージを言葉で表しながら、遊ぶことを楽しむ。

(2) 活動の流れ

時間	環境の構成	幼児の姿	保育教諭の援助・留意点
8 : 3 0	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れることを予想しテーブルの下にビニールシートを敷いておく。 ・様々な素材等や道具を用意し、使いやすいう導線を考えて配置しておく。 ・それぞれのコーナーを作り、落ち着いた雰囲気の中で造形遊びに取り組めるよう、安全面に気を付けながら、環境構成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水分補給や排泄などを済ませておく。 ・汚れてもいい服装になり、素足になるなど身支度をする。 ・友達と一緒に今日やることをイメージしながら期待を持って話す姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検証保育が始まる前に、幼児が緊張しないよう、参観する先生方が来ることを知らせておく。 ・今日は何をするのか、準備されている環境からワクワク・ドキドキしている幼児がいるので、その気持ちを受けとめる。
9 : 0 0	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活の中から一人一人にあった身近な素材等を用意し、遊びが展開できるよう見守っていく。 	<p>遊戯室に集まる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて座る。 ・手遊びをし、全員が集まるのを待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と今日やってみたい事を話し合い、意欲が高まるようにする。 ・様々な素材等や道具があることを伝える。
9 : 1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の今まで遊んできた活動の流れや経緯を表示し、イメージしやすいようにする。 ・幼児がイメージを広げ、自分なりに工夫して作ることができるよう、種類を分けて準備しておく。 ・手に取ってみたいと思えるような素材等の置き方を工夫する。 	<p>予定・約束の話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日までの遊びの流れを振り返り、今日どんなことをして遊びたいか話し合う。遊び方の約束について確認したり、話し合ったりする。 <p>素材置き場を見学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな素材や道具があるのか、安全に使って遊ぶにはどのようにしたらいいのか、保育教諭から話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に楽しく遊べるよう、事前に注意事項や約束について再確認する。 ・どこで活動したらいいのかわからない幼児には活動場所を伝え、安心して活動できるようにする。 ・どんな素材があるのか、みんなで見学し、素材が置かれている場所を紹介する。
<p>【安全面の配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コードや配線が足に引っかからないよう、ガムテープで留めておく。 ・プロジェクターは触らないよう、幼児に伝えておく。 ・ストローを使う時には事前に穴を空け、色水が吸えないようにしておく。 ・色水は飲めないことを、幼児に伝えておく。 ・はさみを使いたい時には保育教諭に声を掛けるよう伝える。 ・ICT 機器は絶対に触らないよう、伝えておく。 			

<p>9 : 20</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも手に取って参考にできるよう、恐竜や動物、乗り物の絵本や図鑑を用意しておく。 ・支援が必要な幼児もいるため、ICT 機器を使って遊びの世界を楽しめるような環境を構成する。 ・なかなか作れずにいる幼児がいるかもしれないので、個別場所を用意し、安心して描いたり作ったりできるような場を作っておく。 ・できあがった作品を大事にできるようにテーブルに飾っておく。 ・集まりのベルを流し、気持ちよく集まれるようにする。 	<p>素材探しをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が作りたい場所へ行き、好きなものを作る。 ・自分の好きな物を作る。  <ul style="list-style-type: none"> ・素材を使って遊ぶ中で気付いたこと、考えたことを友達や保育教諭に伝える。 ・友達や保育教諭と一緒に作った物を飾る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にやりたいと言っていた遊びで使えるような素材を準備し、幼児のイメージが具体的に表現できるようにする。 ・どんなモノ（作品）を作りたいのか保育教諭も一緒に考え、意欲が高まるようにする。 ・「どういう風に工夫したらそうだったの？」等とイメージが滲らむような声掛けをする。 ・幼児の発見や頑張りを認めていく。 ・幼児が様々な素材を使って、試行錯誤している姿を見守り、必要に応じて声を掛ける。 ・セロハンテープの使い方など、個々に応じて援助する。 ・幼児の力量でできないところは補助しながら、作る楽しさやできた喜びが感じられるようにする。 ・一旦、手を止めて保育教諭の前に集まり、今日の遊びを振り返る。
<p>9 : 50</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が発表している時には、静かに話を聞けるよう、話をしている幼児がいることを知らせ、気付けるようにしていく。 ・片付けがしやすいよう素材や道具を入れるカゴを準備しておく。 	<p>本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作ったものを発表する。 ・友達の発表にも耳を傾ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児のイメージの世界を大切にし、話を傾ける。 ・幼児一人一人の頑張りを認め、工夫していたところを全体に伝えていく。 ・楽しかったことや工夫したことを共感し、周りの幼児に伝えていく。 ・「またやってみたい」と造形遊びに期待をもって取り組めるようにする。 ・みんなで一緒に元にあった場所に帰すよう声掛けをする。
<p>10 : 00</p>		<p>片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使った物は元の場所に戻す。 	

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）】から検証保育時に見られた育ち

- ・身支度や片付けの方法を知る。（自立心）
- ・友達と一緒に素材で好きな物を作って遊ぶ。（豊かな感性と表現）
- ・友達のしていることを見たり、真似たり、感じたことを共感したりする。（協同性）
- ・作った色水をいろいろな容器に移し替え、試したり工夫したりしている。（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- ・できあがった作品を見て喜ぶ。（健康な心と体）
- ・できあがった作品を見て、保育教諭と一緒に自分の思いを伝える。（言葉による伝え合い）

自然物を使ってジュースを作ってみよう！

ねらい：どんな自然素材を使うと色のついたジュースに変わるのか（砂，赤土，ホウセンカの花等）を使って試してみる。

どうしたら自分の好きな色が作れるのかみんなで考える。

活動の展開：保育教諭と一緒に興味を持った作品を作る。

友達や保育教諭と気付いたことや発見したことを楽しむ。

幼児の姿

**10の姿からとらえた
幼児の育ちの姿**

・絵の具でジュースを作った楽しかった C 児。「またジュースを作ってみよう！」と話していたので、今度はお庭にある自然物を使って色水を作ることになった。仲良しの友達がホウセンカの花を使って青紫の色水を作ったことで、C 児もホウセンカの花を使って色水を作ってみることになった。



C 児 「先生、C のは水色になってる！同じ花なのになんで色が違うんだろう…」と不思議そうにしていた。

D 児 「C さん、ホウセンカを入れる前に何か入れていたでしょ？」と聞かれ、

C 児 「そっか。最初に砂と水を入れたから水色になったんだね」と嬉しそうに話していた。



・砂を入れると色が変化することに気付いた C 児。「もっと砂を入れてきれいな水色になるのかやってみる！」と砂と色水を何度も調合し、納得のいく色が出るまで作り続けていた。



苺の綿あめジュース完成～！！

教諭 「保育教諭が何味のジュースを作ったの？」

との問いに

C 児 「綿あめジュースだよ！」と答えていた。

教諭 「どうして綿あめなの？」と聞くと

C 児 「だって水色の綿あめはフワフワしているでしょ、フワフワする苺の甘～いジュースは最高に美味しいよ！」と創造力を膨らませて話をする姿があった。



・友達の刺激になるよう、この日作ったジュースを玄関の前に飾り、みんなに見てもらえるようにした。

・ 社会生活との関わり

園庭で草花や土，砂等を使って色水を使って遊ぶ。

・ 協同性

友達と一緒にジュース作りを楽しむ。

・ 数量，図形，文字等への関心，感覚

色水をコップに分け，量が増えたり減ったりする変化に気付く。

・ 言葉による伝え合い

工夫したところを保育教諭に伝える。

・ 豊かな感性と表現

自分が経験してきたことを思い出し，イメージを膨らませながら，ジュースを作る。

【次回への遊びのつなぎ】

・ C 児の考えた「フワフワの綿あめジュース」に近づけるよう，今度は石鹸水等を使って本物の綿あめのようにフワフワする色水遊びができるよう，教材研究を行い，C 児のイメージを再現できるようにしていきたい。

・ 絵の具を使った色水とは違い，自然物を使ったジュースは数日後，色水が透明になっていたのでもその様子に気付かせてあげることができなかった。今度作る時には，なぜ色が透明になったのかまで考えられるよう援助の工夫を行う。

Ⅷ 研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

幼児のイメージが広がるような絵の具や壁紙、ローラー、廃品の素材等を準備し、大胆に描いたり、作ったりできる場を設けることで、色や形の組み合わせの美しさや面白さに触れ、好奇心を高めることができるであろう。

(1) 幼児のイメージが広がるような環境の工夫について

① 手だて

幼児の好奇心を高めることができるよう、様々な素材等を用意し、形が似ている物や同じ種類の素材等を整理整頓されたカゴの中に入れて並べ、目でも楽しめるよう、薄い色から濃い色へと色彩を意識しながら素材の置き方を工夫した。また以前に描いたローラー遊びの作品を壁に貼り、ICT 機器を使って風景等を映し出すことで、幼児がワクワクドキドキし、何かを作ってみたくなるような環境構成を行った(図4)。



図4 種類別に置き、色彩を意識した素材

② 結果

素材を手にとって遊んでみたくなるよう、置き方を工夫したことで、ウキウキして友達と何を作るか話し合い、幼児が素材等に興味を示し、意欲的に遊ぶ姿が見られた。また、様々な素材を揃えたことで、幼児が自分のイメージにあった遊びを進めることができた(図5)。



「氷(松ぼっくり)を入れるととっても冷たくなって美味しいんだよ!」

図5 氷を松ぼっくりで表現する幼児の姿

③ 考察

以前作った作品を貼り、ICT 機器を使って風景等を映し出したことや素材を豊富に準備したことで、幼児にとって非日常的な空間となり、幼児の好奇心を刺激し、ワクワクドキドキしながら、「作ってみたい」と思うような環境構成を作ることができたと考える(図6)。素材等の中には幼児にとって危険を伴うものがあるので、幼児に素材等を提供する時には安全に使えるのか見極め、安心して遊べるよう配慮する必要がある。



いつもは違う遊びをしてしまう幼児も自分の好きな素材を見つけ、イメージを膨らませて遊ぶ姿が見られた。

図6 自分で好きな遊びを見つけて遊ぶ姿

(2) 幼児がのびのびと表現する環境の工夫

① 手だて

幼児の発達や実態を考慮し、全身を使って素材等の質感を楽しめるよう、広い遊戯室を利用して地域から提供してもらった壁紙を使い、遊戯室全体にブルーきるよう工夫を行った。

② 結果

指で描くことで壁紙の質感を楽しみながら、絵の具の色が混ざる様子を楽しむ姿が見られた(図7)。また、偶然水入れに入っていた色水がこぼれたことで足でも濡れた感触を楽しむことができた(図8)。



「あっ、紫になった!」「指で色を塗ると気持ちがいいよ!先生もやってみて」と感触を楽しむ姿が見られた。

図7 指で壁紙の質感を楽しむ幼児の姿



足がぬるぬるして気持ちがいいよ！

図8 ぬるぬるした感触を足で確かめる姿

③ 考察

大きな壁紙を使用することで、全身で絵の具の感触を楽しんだり、ダイナミックに表現したりすることができたと考える。壁紙を使用したことで、破れてしまうことなく、薄く色づいていく様子が幼児の感性を高め、イメージを広げることができたと考える（表3）。

表3 幼児のつぶやき

- ・「絵の具を混ぜたらお芋みたいな色になったよ」
- ・「お芋の畑みたい！」
- ・「今度はお芋のはちみつジュース作りたいな」

2 作業仮説(2)の検証

幼児の実態に応じた造形遊びに関する保育計画を立て、幼児の思いに寄り添いながら、造形遊びを積み重ねていくことによって、夢中になって素材等で遊ぶようになり、探究心を高めることができるであろう。

(1) 幼児の実態に応じた造形遊びに関する保育計画の工夫

① 手だて

幼児の発達段階に応じて、最初は素材等の数を減らし、幼児がじっくりと素材等と向き合って遊べるよう、計画を立て、実践を行った。

② 結果

幼児が好きな絵の具やローラー、壁紙等を計画的に取り入れたことで、手に付いた絵の具や壁紙の凸凹を触った時の感触を楽しみ、夢中になって遊ぶ姿が見られた。地域から提供してもらった壁紙や小学校から借りたローラーを利用することで、あまり体験することができない遊びを経験することができた。

③ 考察

一度に素材等を沢山提供するのではなく、じっくり素材等と関わって遊ぶ時間を設けたことで、幼児が絵の具や壁紙を触った時に感触を十分に味わうことができたと思われる。

(2) 一人一人の思いに寄り添いながら遊びを進めていくための工夫

① 手だて

造形遊びをしていく中で、一人一人の興味関心のある遊びを一緒に見つけ、どんな物を作ってみたいのか幼児の思いに寄り添いながら一緒に考えていった。

② 結果

保育教諭が幼児一人一人の思いや考えを言葉にし、一緒にやってみたい遊びを見つけていったが、友達の影響や環境構成によって、幼児は日々やりたい遊びが変わっていくことが分かった。また、保育教諭は幼児が何に心を動かしているのか目を凝らして見ることで、どのような思いで作品を仕上げたのか詳しく知ることができた。

③ 考察

保育教諭が造形遊びに関する保育計画をもとに何度も幼児の実態に合わせ、修正していったことで、幼児が自ら遊びを見つけ、造形遊びを楽しむことができたように思われる。保育計画を立てることも重要だが、幼児の「やってみたい」遊びが満足できるよう援助していくことも大切だと感じた。また、幼児一人一人の思いを丁寧に聴いていくことで、幼児の考えていたことや思いに気付くことができた。幼児は今まで体験してきたことを思い出しながら自分なりのイメージを膨らませて遊びを進めていることが分かり、個々の思いを受け止めていくことの大切さを改めて実感した。

(3) 幼児が試したり、確かめたりし、夢中に

なって遊ぶ援助の工夫

① 手だて

少しずつ、素材等を使って遊ぶことに慣れてきたので、今度は全員が自分の好きな素材等を見つけて遊ぶことができるよう、カップや容器、コップや布等、様々な素材を用意し、幼児が何度も試すことができるよう、環境の工夫を行い、保育教諭は幼児の「やってみたい」思いを受け止めながら援助していった（図9）。



図9 試してみたくなるような容器の準備

② 結果

絵の具で作った色水で遊んでいたB児。友達と色水を交換して遊んでいくうちに、色の変化と共に形の違う容器に色水を移し替えると色水の量が変わることに気付いた。様々な容器に色水を入れ、量の変化を観察する姿が見られた（図10）。



違う容器に入れると量が増えたように感じ、何度も移し替えをして実験している様子。

図10 何度も容器を移し替えて色水を入れる姿

また、どのようにすればペットボトルに色水を入れることができるのか、保育教諭と一緒にいろいろな容器に色水を入れ、何度も失敗を繰り返しながら、根気よく試して入れる姿も見られた（図11）。



ペットボトルに自分の作った色水をどうしたらうまく入れることができるのか、何度も試す幼児の姿が見られた。入った時には達成感を味わっていた。

図11 色水をペットボトルに入れる為工夫する幼児の姿

③ 考察

じっくり素材等と関わって遊ぶ時間や様々な素材等を使って遊ぶことができる環境構成を工夫したことで、幼児が試したり、確かめたりするには大変有効だったと考えられる。また、幼児にとって少し難しいことでも、保育教諭が側にいて一緒に考えながらヒントを投げかけたり、励ましたりすることによって、途中で投げ出さず、最後まで頑張ってペットボトルに色水を入れることができたように感じる。また、友達の刺激を受け、じっと色水を移し替える様子を見つめる幼児の姿があり、どのようにしたら入れることができるのか興味を持ち、入った時には自分のことのように一緒に喜び、共感する姿が見られ、協同性の芽生えを見取ることができた。

3 本研究を通して

幼児が豊かな感性を育むためには、造形遊びを通して、一人一人がじっくり素材と関わる時間を確保し、その幼児なりの遊びの過程に保育教諭が寄り添い、理解し、受け止めることが大切であることが分かった。

このような環境構成や援助が家庭においても継続して行われることがさらに重要だと考え、保護者等に対して研究保育の様々な援助や成果を保育記録として伝え、共有してきた。すると、10月と1月に行った保護者等アンケートでは家庭で造形遊びをする幼児が55%増え、TV視聴・ゲーム絵本その他が50%減ったことが分かった（図12）。

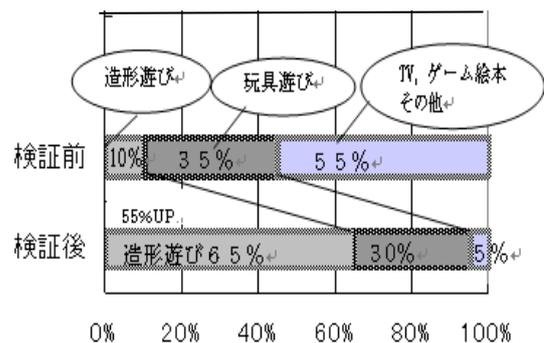


図12 「家庭ではどんな遊びをしますか？」

写真や文字，吹き出しを用いながら，幼児の遊びの過程を可視化し，丁寧に記録していくことで，保育教諭同士が共通理解でき，環境構成や保育計画の見直しになるだけでなく，幼児の成長の歩みを保護者等にも知らせていくことで，保育教諭と保護者等が保育に対する価値観を共有し，家庭でも自分で物を作る楽しさが継続して行われるようになった。今後は，幼児一人一人の学びやストーリーが見やすく，誰でもすぐに活用できる保育記録の工夫について研究していく必要がある。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 幼児のイメージが広がるような環境構成の工夫をしたことで，好奇心を刺激し，一人一人が好き素材等を見つけ，感触遊びや自分なりのイメージを広げて作品を作ることができ，好奇心を高めることができた。
- (2) 保育教諭が幼児の実態に応じた造形遊びに関する保育計画を立て，幼児一人一人の思いに寄り添いながら造形遊びを積み重ねていったことで，幼児が夢中になって素材等と関わり，何度も試したり工夫したりしながら探究して遊ぶことができた。

2 課題

- (1) 幼児が造形遊びを「やりたい」と思った時に，すぐに手に取って遊ぶことができ，いつでも誰でも利用できる空間作りをしていきたい。
- (2) 保育計画を立てた際，実際の幼児の姿と予想される幼児の姿と差異があった

ので，幼児の実態に応じて，多様な関わり方ができるようにしていきたい。

おわりに

幼児がのびのびとイメージを膨らませて自分の思いを表現できる幼児になってほしいという思いで，研究を進めてきました。その中で，日々幼児の想像力や感性の豊かさに触れ，幼児の思いに耳を傾けることの大切さに気付くことができました。幼児は遊びの中で，絶えず考えながら，体験してきたことを思い出し，イメージを膨らませて遊んでいます。言葉に出していないだけで，一人一人が作品に対して思いを抱きながら遊びを進めていることが分かりました。私達保育教諭は，その言葉にならない思いを一つ一つ紡ぎながら言葉にしていくことで幼児の豊かな感性を引き出していくことができるのだと改めて感じました。半年間の研究の中で学んだことや実践をこれからの保育の中で活かし，深めていきたいです。

研究期間中，励まし，ご指導くださいました浦添市教育委員会の平良奈津子指導主事，入所前より事前研修を丁寧にご指導くださいました本研究所の長濱京子所長，仲宗根歩指導主事，井崎重指導主事に深く感謝申し上げます。また，テーマ検討会等で様々な角度からご助言くださいました浦添市教育委員会の諸先生方に心より感謝申し上げます。最後に快く研究所へ送り出してくださいました浦添こども園の松原朝子園長はじめ，いつも温かく声をかけてくださった先生方，半年間の研究を共に支えてくれた研究員の先生方に感謝いたします。本当にありがとうございました。

【主な参考・引用文献】

- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 (2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
- ・花原幹夫 編著 (2017) 『保育内容 表現 保育の内容・方法を知る』 新保育ライブラリ 北大路書房
- ・岡健 金澤妙子 編著 (2015) 『演習保育内容 表現』 建帛社
- ・森上史朗 柏女霊峰 編 (2001) 『保育用語辞典』 ミネルヴァ書房
- ・村内哲二 編著 (1993) 『保育内容』 造形表現の指導 建帛社
- ・石上浩美 編著 (2015) 『保育と表現』 嵯峨野書院
- ・中井清津子 著 (2019) 『生活に根ざした3・4・5歳児 かく・つくる・造形遊び』 株式会社サクラクレパス出版部
- ・花城涼子 田島早織 (2018) 「好奇心や探求心をもって物事に取り組む子の育成」平成30年度教育実践研究論文集 第26号 公益財団法人 日本教育公務員弘済会沖縄支部 41ページ